

報 告

昭和三年二月^{二十一日}_{二十六日}地震報告

旭川測候所

二月二十一日午前八時三十五分頃及二十六日午後八時二十分頃當地方に有感覺の地震あり、震動の大ならざると、震動繼續の短時間にして性質急なりし爲め、震央點と推測せらるゝ附近の報告に據つて看ても敢て破壊的地震には有らざれども、當地方としては今回の如き局發地震の相續いて發生せるは全く稀有の事に屬す故に爰に其概要を記して後日の參考に資せんとす。

二月二十一日—地震

本所の觀測は左の如し

初動方向北より南へ西より東へ?

發震時午前八時三十四分五十三秒六

初期微動の繼續時間

三秒四

總震動 五十五秒

最大振幅 東西南北 水平 三八〇 ミクロン
三〇八 ミクロン

震度 弱震の弱

人身の感覺 約五秒

震源 旭川より 約二十五軒

尙本地震に就て札幌測候所及帶廣測候所の觀測左の如し

札幌測候所

一、發震時刻 午前八時三十五分二十三秒四

一、初期微動繼續時間 十七秒七

一、初動方向 北—ミクロン 〇五
東—ミクロン

一、人身の感覺 なし

帶廣測候所

一、發震時刻 午前八時三十五分二十六秒

一、波動極めて微細にして各相の探定不能

一、人身感覺なし

尚羽幌測候所にては何等震動の痕跡を止めずと云ふ、此地震に就て管内各地の状況左の如し

地名	震度階級	震動性質	記
下江丹別村字伴納	強震(弱き方)	最初は急激なる上下動を感し後水平動となる	「ドンドン」と二回大砲の如き音響を聞き後瞬時に振動す振動は二三回繰返せり戸障子なる地鳴あり
上江丹別マタルクシユベツ	弱	不	戸障子鳴る地鳴なし
多度志村字湯内	弱	不	戸障子動揺す
神居村字忠別太	弱	水	動
神居村字臺場ケ	弱	水	動
神居村字共有地	弱	震	動
神居村市街地	弱震(弱き方)	不	遠雷の如き地鳴りを聞く
神居古	弱震(弱き方)	不	唯一回衝動を感ず地鳴なし
東 鷹	弱震(弱き方)	不	唯一回衝撃を感ぜるも感知せるもの少数なり
納	微震	微震	急なる衝撃を受けたる如く感ず地震と感じたる人少なし
深	微震	微震	
比	微震	微震	

而して美瑛、上富良野、士別、新城(蘆別村)妹脊中にては氣付たる者なし。

二月二十六日

二十一日朝の地震よりも稍強烈に感じたりとは各地の一致する處にして當所地震計は、ドラム用時計

故障の爲め正確なる記録を得ざりしも、發震時午後八時十九分二十秒頃にして震動は弱震程度、人身の感覺約五秒とす。

尙札幌測候所の觀測は

發震時 午後八時五十九秒五

總震動 一分八秒四

初動方向 北七ミクロン 東 三ミクロン五

波動微細にして各位明かならず

而して帶廣、羽幌兩測候所にては何等の印象をも止めずと云ふ、此地震に就て管内各地の狀況を摘記すれば

地名	震度階級	震動性質	記事
下江丹別村(伊納)	強震(弱き方)	上下水平動	二十一日より強し 突然家屋可成り動搖す
上江別(マタルクシユベツ)	弱震	—	二十一日より強し地鳴あり
臺場ケ原	弱震	—	二十一日より強し、吊下物搖れる
神居村	弱震	突然上下に動搖す	二十一日より強し地鳴りを聞かず
神居古潭	弱震	—	二十一日より強し、地鳴なし、家屋動搖す

尙上富良野、妹脊牛にては感知せるものなし、

以上に就て見るに、伊納附近は上下震動の最も劇しき土地にして、且地鳴りも伊納方面より波及せりと云ふもの多く、旭川に於ける地震計記録による震央距離も此の邊に相當して居るが、標準を定め兼ねる人身の感覺を主として震源地點を決定するのは如何かとも思はれる。

其後の局地地震

天鹽國幌延村の地震

旭川測候所 四月四日午前二時三十二分四十一秒

羽幌測候所 四日午前二時三十一分五十五秒

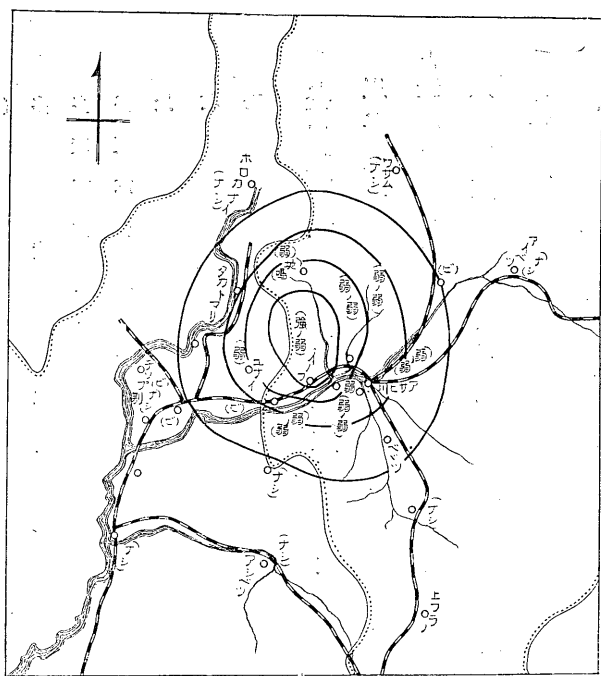
四月十四日

納	多	多	比	和	美
内	志	内	泊	寒	瑛
弱	微	弱	弱	微	微
震	震	震	の	震	震
弱	震	震	弱	震	震
水					
平					
動					
二十一日より強し戸障子鳴る					
大風の吹き来る如く、山野約三分間鳴り渡り					
後地震を感ず					
ドドン家根より雪の落ちたる様地鳴り					
吊下物揺れる					
二十一日より弱し					
地震と感じたるもの少なし					
感じたるもの少なし					
感じたるものなし					

旭川測候所 午前六時十六分三十九秒

微震 初期微動 一秒八

二月二十一日の地震



二月二十六日の地震

